

女性起業家の成長過程におけるジレンマと対処行動

森永専門ゼミナール 経営学科 4年

鈴木夕里菜

【要旨】

本研究の目的は事業拡大と持続可能性という日本の女性起業家が直面する問題に対し、事業拡大初期の起業家と経営者という役割の違いに伴うジレンマを明らかにし、その乗り越える要因を明らかにする。

今日の日本では、女性起業家の増加が顕著であり、彼女たちは多様化する市場のニーズに応える存在として期待されている。しかし、多くの女性起業家は個人形態の小規模ビジネスを営んでおり、男性よりも事業拡大への意欲が低いことが指摘されている。これまでの研究は、女性起業家支援に関するものが多く、事業拡大に焦点を当てた研究は限られている。したがって、本研究では、事業拡大に取り組む女性起業家を対象に、①女性起業家が経営者になる過程で直面するジレンマはと何か、②女性起業家はどのような行動を通じてジレンマを乗り越えたのかを明らかにすること研究課題とする。

女性起業家3名に半構造化インタビューを実施した結果、①組織に関するジレンマ、②起業家自身の葛藤が明らかになった。また、ジレンマ・葛藤に対しての対処行動として①コンフリクトマネジメントの活用、②リーダーシップの変化、③内省が明らかになった。

考察では、調査結果を踏まえ、①職務経験がジレンマの解決に与える影響、②なぜ内省という行動を取ることができたのか、③内省が女性起業家へ与える影響、④ジレンマ・葛藤の発生から解決までのプロセスについて述べた。

研究の意義として、女性起業家が事業拡大の過程で直面するジレンマや課題を具体的に解明した点にある。これにより、女性起業家が長期的に成長し、持続可能な事業運営を実現するための具体的な手法や戦略に関する新たな示唆を提供し、広範な起業家支援に関する理解を深めるものとなっている。

一方、研究の限界として、サンプル数の少なさ、コンフリクトマネジメントが対処法の一つであると結論づけるには情報が不十分であること、得られた知見が女性特有のものであるかには情報が不十分であることが挙げられ、結果の一般化が難しいということだ。今後は、さまざまな業種や規模の女性起業家を含むより大規模な調査や、今回の調査結果にて得られた行動に女性起業家特有なことがあるのかも検討する必要がある。